

ヒゼキヤ王の時代からバビロンに圧迫を受け、父は家臣による謀反で殺害され、8歳という若さで即位したヨシヤは、心細さがあったでしょう。神殿の大祭司ヒルキヤの支持を受けて、神殿を中心とした治世を行おうと願い、信仰の面ではヒゼキヤに習った王でした。神殿の祭儀を重んじました。

一方、エルサレムの通りや、地方の町々で、祭司の子・預言者エレミヤが、ユダの民の背信、預言者、祭司の欺瞞、王家の高慢に対し、激しい裁きの言葉を語っていました。その言葉はヨシヤの耳にも入っていたことでしょう。ヨシヤの心からは恐怖が拭えなかったような気がします。神殿の修理、奉獻、祝祭の実施、祭司の任務など細かく実施し、神の目にかなうようにと願っていました。



ヨシヤに書記官が律法の書を読む Leonaert Bramer

ところが、神殿の破損を修理している時に、モーセの律法の書が発見されました。大祭司ヒルキヤがそれを書記官に渡して、ヨシヤ王に読み聞かせました。それを聞いてヨシヤは衣を裂いた(列下 22:11)と記されています。衣を裂くとは激しい悔悛の印です。

「この律法の書を取り、あなたたちの神、主の契約の箱の傍らに置き、あなたに対する証言としてそこにあるようにしなさい。わたしはあなたがたくなで背く者であることを知っている。わたしが今日、まだ共に生きているとき

でさえ、あなたたちは主に背いている。わたしが死んだ後は、なおさらであろう。」(申31:26-27)

律法の書の発見は、ヨシヤの最大の貢献であると同時に、その言葉の恐ろしさにヨシヤは更におののいたのです。そして、神の裁きの内容を知りたいと思いました。「この見つかった書の言葉について、わたしのため、民のため、ユダ全体のために、主の御旨を尋ねに行け。我々の先祖がこの書の言葉に耳を傾けず、我々についてそこに記されたとおりにすべての事を行わなかったために、我々に向かって燃え上がった主の怒りは激しいからだ。」(列下 22:13)

祭司たちはヨシヤの恐れを鎮めるために、女預言者フルダのもとへと出かけました。彼女は「民は他の神々に仕えたために災いを下すが、あなたは心を痛め、主の前にへりくだり、衣を裂き、わたしの前で泣いたので、わたしはあなたの願いを聞き入れた」(列下22:19)とヨシヤへの赦しの言葉を伝えました。祭司たちはそれをヨシヤに伝えると、ヨシヤは非常に安堵し、更に信仰を徹底します。王は、ユダのすべての人々、エルサレムのすべての住民、祭司と預言者、下の者から上の者まで、すべての民と共に主の神殿に上り、主の神殿で見つかった契約の書のすべての言葉を彼らに読み聞かせた。それから王は柱の傍らに立って、主の御前で契約を結び、主に従って歩み、心を尽くし、魂を尽くして主の戒めと定めと掟を守り、この書に記されているこの契約の言葉を実行することを誓った。民も皆、この契約に加わった。(列下23:2-3)

ヨシヤはまた口寄せ、霊媒、テラフィム、偶像、ユダの地とエルサレムに見られる憎むべきものを一掃し、神殿で発見された書、律法の言葉を完璧に実行したのです。律法遵守によって救われると信じ、純真に律法に従い、神の裁きを恐れ、信仰に生きた王がヨシヤでした。

ところが、彼は篤い信仰を持っていたのに、国際情勢を的確に判断する力はありませんでした。

彼の治世に、エジプトの王ファラオ・ネコが、アッシリアの王に向かってユーフラテス川を目指して上って来た。ヨシヤ王はこれを迎え撃とうとして出て行ったが、ネコは彼に出会うと、メギドで彼を殺した。(列下23:29)

エジプト王ネコは「今日攻めて来たのはあなたに対してではなく、私が敵とする家に対してある。逆らうな」と警告を発しましたが、ヨシヤは聞き入れず、攻撃のために変装までして出て行ったのです。なんとというあっけない最期でしょうか。その後、ユダ王国はエジプトにも屈服していきます。